

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	73	学校名	浜松湖東高等学校	記載者	校長職務代行者 副校長 渥美 真人
------	----	-----	----------	-----	----------------------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	自ら学ぶ習慣を育成し、確かな学力を伸ばさせる。	自分自身の苦手箇所を正確に把握し、自分に合った学習を進められる生徒 70%以上	A	A	進学校らしく自ら学ぶ姿勢ができています。苦手を克服するためにやる気を見せる生徒が多いように見受けられます。
	探究的な学びを推進する。	自分の最適解や納得解など考えを表現できると答える生徒 70%以上	A	A	社会に出てからもこの姿勢が大切なので、受動的に学ぶことから、能動的に自分から学んでいくことや発表・プレゼンを実際に体験することができている。
	「時を守り、場を清め、身を正す」指導をすすめる。規範意識を醸成する。	校内における私物の管理（机上やロッカーの上等に放置しない）ができる生徒 95%以上	A	A	これは生徒自身の人生において基本的なことであり、同時に大切なことである。
		「生活面（服装・頭髪等）はしっかりと答えている」と答える生徒 80%以上	A	A	校内を歩いても身なりに問題はなく、すれ違うとしっかりと挨拶をしてくれることが頼もしい。
	生徒が主体的に将来設計できるような進路指導を推進する。	自分自身の実力を正確に把握し、自分に合った進路を決められる生徒 80%以上	A	A	キャリア教育を通じて、様々な職業を知る機会があることが評価できる。また、進路における意識向上を図り、より良いキャリア形成につながるように指導の継続をお願いしたい。
本校の進路指導に対して満足と感じる卒業生 90%以上		B	B	受験方法の多様化により生徒の個性にあった受験方法を見出すことは重要なことであり、手厚い指導ができています。	
ア	全員が積極的に関わり、主体性や社会性を育む。	・県大会へ出場する部活動（大会等がない部活動は対外的活動実施）80%以上 ・各部活動による奉仕活動 年1回以上	B	A	部活動に所属する生徒からは充実感が伝わってくる。

様式第5号

ア		生徒会行事等は生徒自らの企画・実行により行われていると感じる生徒 80%以上	A	A	生徒会役員は情熱をもって活動しており、生徒主体の活動ができている。
	一人ひとりが、諸活動に前向きに参加し、他者との関わりの中で自己肯定的感を醸成する。	本校の教員は自分のことを認めてくれていると感じる生徒 80%以上	A	A	担任や部活動の顧問の先生は生徒に寄り添った指導を行ってくれている。
		学校に安全・安心の場があると答える生徒 80%以上	A	A	先生による見守りや見てもらっているという安心感、部活動等のやりがいなど、安心できる自分の居場所が学校にあると感じている生徒が多い。
	広い視野で物事を考えることができるよう、読書活動の充実を図る。	朝読書や授業を含め学校や家庭で読書に取り組みたと答える生徒 80%以上	B	B	SNSの普及で生徒の活字離れが言われて久しく、読書する習慣が薄くなってしまった生活環境では、読書習慣を身に付けさせることは難しい課題である。
イ	研修の充実を図り、その成果を共有することで、指導力の向上を図る。	授業見学、授業改善及び学習評価の校内研修、校外研修の内容を共有し、授業で実践した教職員 70%以上	B	B	ホームページで職員の研修について拝見した。多忙な業務、働き方改革の中で研修時間の確保は難しい。教師が自分にとって今何が必要かを主体的に考え、学びを深めていくことが大切だと考える。
	内規・各種規定の整理を行い、効果的な指導方法を検討する。	点検した内規・規定 100% 各事業の目的の明確化 100%	B	B	事業の目的の明確化は今の時代、必須である。
	保護者、県民等への広報活動を充実する。	ホームページ更新回数 年 100 回以上 行事開催の案内通知と併せたメール送信やオンライン配信の実施	A	A	インスタグラムの活用の挑戦が素晴らしい。今後はアクセス数の検証と分析が課題である。
イ	PTA・後援会・同窓会と連携した教育環境の整備を図る。	良い環境で学習・部活動ができていると感じる生徒 70%以上	A	A	後援会、同窓会側からは学校支援のシステムは構築されている。
	施設設備の充実を図る。	危険性の早期把握、迅速な対策、及び利便性の向上	B	B	地震の発生が現実的になってきたので、危険個所の把握や迅速な応急措置等を実施して、施設設備の充実を図ってもらいたい。